

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		8,411	t-CO <sub>2</sub>
① （温 を 二 室 除 く 酸 効 く 化 果 炭 ガ ス 換 算 排 出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		8,411

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	
------------------	--

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 令和 9 年度	
			目標排出量	目標削減率
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	%

項 目	基準年度 令和 6 年度 排出量（実績）		目標年度 令和 9 年度		
			目標排出量	目標削減率	
原単位当たりの 排 出 量	7.14	t- CO <sub>2</sub> / kW	6.926	t- CO <sub>2</sub> / kW	3.0 %

（2）目標設定の考え方

原単位当たりの排出量を年間 1%、3 年間で 3%削減する
-------------------------------

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考 3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源行動の実行	屋内機、屋外機のフィルター等を定期的 に清掃し、効率的な運転を実施する	屋内機のフィルター清掃を年 1 回実施
省エネルギー・省資源行動の実行	機械室内の環境調査を実施し、空調設備 の温度設定、風量設定を適正（効率的） な値となるよう変更実施する	室外機環境への取り組みと空調 温度設定の最適化
省エネルギー・省資源行動の実行	不要な照明の消灯を徹底し、消費電力の 削減を実施する	既存人感センサーの 100%利 用
省エネルギー・省資源行動の実行	通信設備の統廃合を図り、通信設備の台 数を削減することで、効率的な運用と消 費電力（固定損）の削減を実施する	通信負荷のトレンド管理を毎月 実施
省エネルギー・省資源行動の実行	通信設備及び通信用空調設備について、 高効率設備を選定導入する	設備更改や維持増時には、高効 率設備を選定導入
廃棄物の排出抑制	紙への印刷は極力減らし、印刷する場 合には、両面コピーや 1 画面へ複数画面分 を印刷するよう使用枚数を削減する。	

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

クールビズ、ウォームビズの積極的な取り組みを実施

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

定時退社に努め残業時間を削減

--